

地方 線区を 訪ねて

22

135年の鉄道の歴史が 人と地域を繋ぐ

JR西日本・草津線

大砂川トンネルを駆け抜ける「221系車両」

草津線の歴史は135年

列車が京都盆地を抜けると、山々に霧がかかり始める。琵琶湖の端をかすめて列車は草津駅に到着した。

草津線は、ここ草津駅（滋賀県草津市）で東海道本線から分岐し、関西本線柘植駅（三重県伊賀市）までの36・7kmを結ぶ路線。起点の柘植までは11駅、所要時間は約42分だ。

関西鉄道の路線として草津―三雲間が開業したのは1889（明治22）年。2024（令和6）年で135年になる。1907（明治40）年に国有化され、1987（昭和62）年、国鉄民営化によりJR西日本の管轄となった。今でも貴生川駅の上りホームの端には、天王寺鉄道管理局時代を忍ばせる安全祈願の碑がひっそりと立つ。

草津線区統括の小西善治さんにお話をうかがう。国鉄マン二世。京都駅のホーム整理員のアルバイトがきっかけで国鉄に入省。京都の向日町操車場、大阪駅などを経て2022（令和5）年まで草津線貴生川駅長を務めていた。

安全確認を怠り先輩からひどく叱られた新人時代、汗だくで線路脇の草刈りをしたことなど、かつての逸話にはのどかさが感じられる。

「草がすごいから草津線というの

お話を伺った、小西さん。草津線線区長を務め、貴生川駅長を歴任

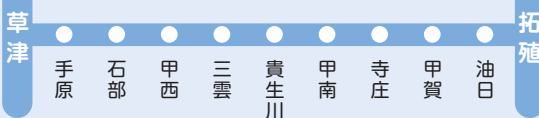


ね」という人もいるくらい線路脇の雑草は威勢がいい」と笑う小西さんは、今でも親睦を兼ねて沿線駅の草刈りに出向く。話の流れで「時機よし、競合なし、工事なし」と安全確認のために現場の鉄道職員が行う「指差喚呼」も実演してくれた。

草津線の特性を知る

草津線の全線電化は1980（昭和55）年と、かなり後発だ。72年間で蒸気機関車D51が走り、JR西日本移管後もディーゼル機関車D51が客車を牽引して

草津線路線図





除草作業をする小西さん。一度刈ってあげば、次の除草が楽になる



国鉄時代の名残り。天王寺鉄道管理局が貴生川駅ホームに建てた安全祈願の石碑

いた。だから、鉄道ファンにとって草津線は、たまたまなく魅力的な鉄道であった。「もちろん地域にとっても重要な鉄道ですよ」と小西さん。朝のラッシュ時は通勤通学客で8両編成の車両は満員になる。

ところが、2022（令和5）年3月のダイヤ改正で、それまで30分に1本だった柘植―貴生川間の便が1時間に1本になってしまった。輸送密度をみると、柘植―貴生川間は約2000人／km・日、貴生川―草津間は約15000人／km・日で、草津線にはローカル線と都市近郊路線の両方の特性があるのがわかる。

「自治体は複線化と便数増を希望していますが、ご利用を増やす取り組みも重要です」と、JR西労組中央本部政策・調査・福祉対策部長の田中佑佳さん。持続可能なまちと交通

をめざすNPO法人「再生塾」に参加。自治体やコンサルタント、交通事業者などと共同で草津線の再生について調査・研究をしている。

幹線道路が発達した沿線の主な移動手段は、やはり車。自治体による簡易委託駅は、どこも刷新され、バリアフリーや駐輪・駐車場も整備されたが、キス&ライド（家族による駅までの送迎）が多く鉄道利用者は決して多くない。

しかし、地域にとって鉄道は、移動手段というだけでなく様々な意味を持たせたいと考えているのは確かなのだ。

「単に移動する手段というだけではなく、まちの再生という視点で、地域の皆さんと共に鉄道のあり方を考え直さなければなりません」と田中さんは強調する。

草津線の魅力、再発見



2023年3月で運用を終えた緑の「117系車両」

草津線は、忌憚なくいえば地味な路線だ。しかし、歴史ある沿線に、みどころは少なくない。イチ推しは1884（明治17）年築造の大砂川トンネル。甲西駅と三雲駅の間にある現役の大井川トンネルだ。洪水を防ぐため堤防を高くしているうちに川底が地面より高くなり、列車は川の下を走ることになった。

「三雲地区は土地が低いから雨に弱い。トンネル近くに水を抜くためのポンプ小屋があるよ」と小西さん。石と煉瓦のトンネルには往時の蒸気機関車の煤がこびりつき、撮り鉄を魅了するという。瓦屋根や板塀の町並みが残る東海道沿いには人や車が通行する大砂川隧道もある。



草津線起点の柘植駅で。左から尾崎さん、田中さん、宮野さん

一方、草津線は忍者ゆかりの地としても知られる。甲賀市には駅が五つあるが、油日の駅舎のモチーフは巻物を携えた忍者だ。地域ボランティアによる「油日駅を守る会」は土手の桜木の管理も担っている。

「地域に愛される鉄道は地域とのコミュニケーションが決め手。鉄道と地域の特性を探り、時には自ら草刈りをするような泥臭さや人情味も必要だね」と小西さん。これを若い世代にどう繋げていくかが課題だ。

草津線の終着駅は柘植。伊賀忍者の里、松尾芭蕉の生誕の地である。JR関西本線との接続駅でもある。そして、この柘植駅は三重県で最初に開業した鉄道駅―本稿ではこれを明らかにして締めくくりたい。